

経営比較分析表

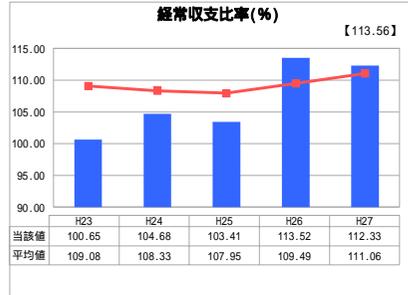
埼玉県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	66.06	99.60	2,225

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,477	33.41	343.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
11,368	32.84	346.16

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

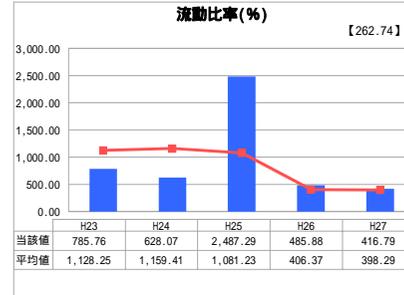
1. 経営の健全性・効率性



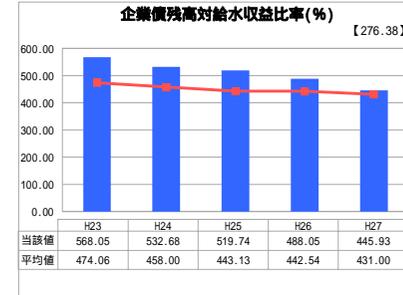
「経常損益」



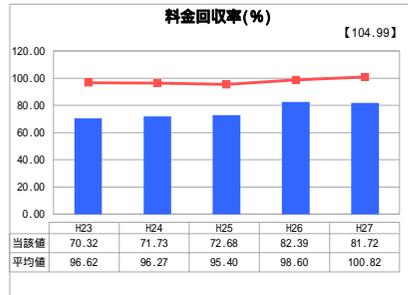
「累積欠損」



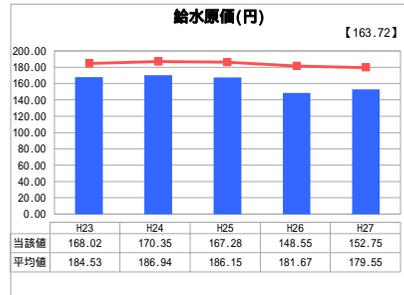
「支払能力」



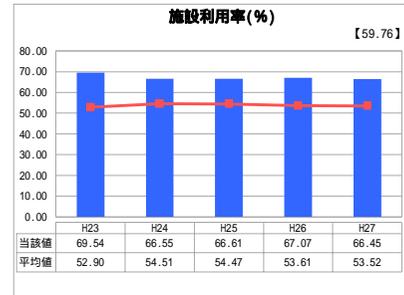
「債務残高」



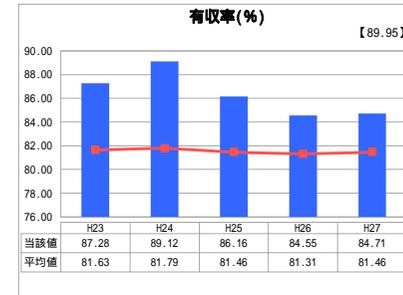
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

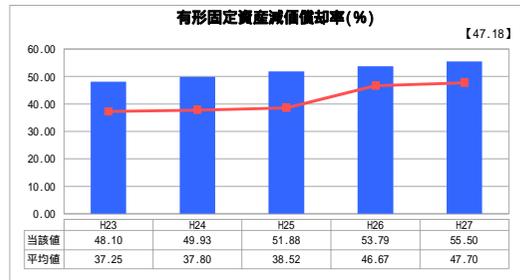


「施設の効率性」

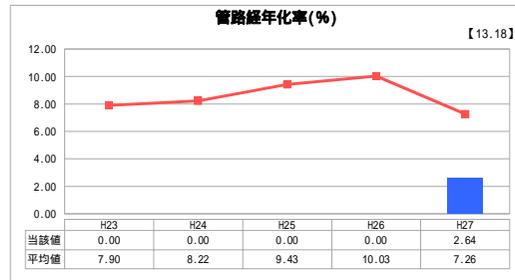


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
平成26年度から類似団体の平均値よりやや上回っている。数値も100%を超えている。これは収益で費用を賄えていることを意味するが、給水収益だけでは財源確保ができず一般会計からの繰入金に依存している状態にある。

累積欠損比率
平成26年から累積欠損金は発生しておらず、健全であるといえる。

流動比率
平成26年度から会計基準の見直しにより減少したが、100%を上回っているため負債を賄っている状況にあるといえる。

企業債残高対給水収益比率
企業債残高が減少傾向にあるため、給水収益に対する企業債残高の割合も年々減少している。

料金回収率
類似団体の平均値より低い水準であり、100%以下の値で推移している。これは、給水に係る費用が給水収益以外の収入である一般会計繰入金により賄われていることを意味している。

給水原価
経常費用の減少に伴い、以前に比べて減少傾向にあり、類似団体の平均値より低い水準となっている。

施設利用率
類似団体の平均値より高い水準で推移しているため、施設の利用率は適切であり、適正な規模を保っている。

有収率
類似団体の平均値に比べ高い水準を保っている。今後有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
平成22年から減価償却率は年々増加し、類似団体と比べても高い水準で推移している。これは、保有資産が耐用年数に近づいてきているということがわかる。

管路経年率
「当該値」欄のH25、H26数値に誤りがありましたので訂正いたしました。

	正	誤
H25	5.59	0.00
H26	7.74	0.00

類似団体の平均値より低い水準で推移しているが、今後法定年数を経過した管路が増加すると考えられる。

管路更新率
類似団体の平均値より低い水準で推移している。老朽化した管路の更新を行うことに時間を要すると考えられる。

全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体の平均値と比較しても著しい悪化は見られない。しかし、収入の面を見ると、給水収益だけでは財源の確保ができず、一般会計からの繰入金に依存しているため、料金回収率が100%を下回り、類似団体や全国平均と比べても数値が低くなっている。給水収益だけで財源の確保ができるよう、段階的に水道料金の値上げを検討していく必要があると考えられる。

老朽化の状況については、今後施設や管路などの老朽化が進んでくると考えられる。そのため長期的な計画を立て、適切な財源確保に努め、優先度の高い施設等から更新を進めていく必要がある。